

世界遺産、歴史的建造物のバリアフリー研究

研究概要

本研究は観光客の高齢化と海外からの観光客増に対応するための観光地のユニバーサルデザイン研究であり、特に観光客が集中する世界遺産、歴史的建造物のバリアフリー化を研究対象としている。



ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科

高橋 儀平 教授 Gihei Takahashi

研究キーワード: 観光 世界遺産 歴史的建造物 バリアフリー ユニバーサルデザイン

URL: <http://researchmap.jp/g0000172036>

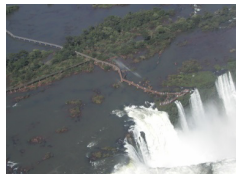
研究シーズの内容

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、海外から多くの観光客を迎え入れる。そのため訪れる誰もが楽しめる観光施設・環境の整備は喫緊の課題である。日本における観光のポイントは全国各地に存在する歴史的、伝統的な文化財であり遺産である。しかしながら、日本の文化財、歴史的建造物等の大半は、車いす使用者を始め、高齢者にとっても観覧不自由なところが少なくない。そこで本研究では、①文化財のバリアフリー化に関する現状を把握すること、②文化財を保護し、その価値を損なわないバリアフリー化の課題を抽出すること、③高齢者、障害者、外国人など多様な観光客に配慮したユニバーサルデザインの具体的方策を提案することを、目的としている。本研究を通して、地域の文化財の価値と地域における観光資源を再確認し、観光産業・まちづくりの促進に貢献することも重要な狙いである。

諸外国における自然遺産や文化遺産の存在する観光地域では基本的なアクセシビリティが充実している。関連するバリアフリー法においても日本を除くと文化財へのルールがある。閉じられた文化財から本当の意味で世界に発信する文化財でなければならない。そのため本研究では物理的な解決手法だけでなく、運用や人的サポート、情報の提供など多面的なアプローチ手法を行使している。



○日本の世界遺産: 左から高野山、清水寺、沖縄首里城、基本的なバリアフリー化を推進している事例



○世界遺産のバリアフリー: 左から北京故宮、イグアスフォールの歩行者デッキ、コロッセオのエレベータ

活用例・産業界へのアピールポイント

地域を活性化する文化財、歴史的建造物をバリアフリー・ユニバーサルデザインの視点で再考し、保護と観光を推進したい。

特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)

重要文化財とそれに関連する建物のアクセシビリティに関する調査、日本福祉のまちづくり学会大会2015.8